

令和2年度学校自己評価表（最終評価）				鳥取県立米子南高等学校	
中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦 1 意欲を育てる＝「主体性を育てる」「やる気を引き出す」 2 成長を支える＝「人と出会い、新たなことへの挑戦を促す」 3 変化を求める＝「現状に満足しない」「アンテナを高く張る」			今年度の重点目標	1 基礎学力の向上 2 基本的生活習慣の確立 3 キャリア教育の充実 4 地域社会への貢献 5 的確な情報発信 6 業務改善の取組

年度当初					最終評価		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標（年度末の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
【基礎学力の向上】 ○社会人として必要な基礎学力・一般教養の習得 ○「やる気を引き出す」授業の工夫・改善	○家庭学習を充実させ、基礎学力の定着 ○一般教養を習得させ、社会人として必要な力の修得	○家庭学習時間の平均が1日あたり29分と少ない。 ○ICTを活用した授業、主体的な学びを行わせる授業、家庭学習をさせる取組を行っている授業を年に数回以上実施している科目の割合は、それぞれ69％、90％、62％である。 ○アンケートで生徒の授業理解における肯定的評価は79％であった。また、朝読書・朝勉強テスト等で知識が身につけているとする生徒は79％であった。	○全生徒の1日の平均学習時間が1時間以上である。 ○ICT等を活用し、生徒の興味関心を育み、考える力を培う授業が広く実施されている。 ○生徒の授業理解における肯定的評価が80％以上、また朝読書・朝勉強テストで知識が身につけているとする生徒の割合が80％以上である。	○各種検定、基礎学力テスト、朝勉強テストなど生徒にとっての身近な学習機会を通じて学習意欲を喚起し、家庭学習を充実させる。 ○ゲーグルクラスルームの活用等、授業改善の研修を引き続き行い、主体的・対話的かつICTを活用した授業を設計できる教員を増やしていく。 ○読書活動が円滑に進むよう「らいぶらりん」、「図書館通信」の内容を充実させて情報提供していく。	○学習時間調査(5月・11月)における家庭学習時間の平均は1年生36分、2年生37分、3年生28分だった。 ○生徒アンケートで授業理解における肯定的評価は79％、朝読書・朝勉強テストで知識が身につけているとする生徒の割合は81％であった。 ○リモート授業への対応のための職員研修を3回実施した。現在ではゲーグルクラスルームは日常的に利用されている。 ○個別に学習支援を必要とする生徒が増えてきている。	B	○一つの授業を複数人で受け持っている科目においては、習熟度別授業とチームティーチングの両方を視野に入れ、基本事項が確実に定着する方法で実践していく。 ○生徒が1台ずつタブレットを持つことに対応した授業研究を行っていく。 ○生徒に求める課題について調整を行い、効率の良い家庭学習を進める。 ○朝読書の環境整備を行って、計画的に実施できるようにしていく。
【基本的生活習慣の確立】 ○知・徳・体のバランスが取れ、社会人として必要な規範意識を身につけた人物の育成 ○あいさつの励行、ルールとマナーを遵守することの啓発	○知・徳・体のバランスの良い生徒の育成 ○社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識の修得	○マナーアップ運動や挨拶運動により、元氣よく挨拶をする生徒が多くなった。 ○授業前後の分離礼の取組は概ね成果を上げ、習慣化しているが、生徒によっては取組姿勢にばらつきがある。 ○多くの生徒が服装頭髪検査で問題ないが、再検査や再指導の対象となる生徒が若干名いる。 ○SNSを利用している生徒が多く、トラブルが増加した。 ○多くの生徒が落ち着いた学校生活を送っているが、中には人間関係に悩み、不安を抱え、基本的生活習慣が乱れる生徒がいる。	○ルール・マナー・モラル等を遵守する規範意識、特に情報リテラシーの意識が高まっている。 ○生徒が主体的に考えて行動し、より良い人間関係を築き、充実した学校生活を送っている。 ○分離礼の習慣が学校生活全体に広まっている。 ○アンケートで、生徒・保護者の「基本的生活習慣の確立」項目の肯定的評価が90％以上である。	○生徒会執行部を中心とした生徒主体の挨拶運動を展開していく。 ○SNS利用に関する情報提供やトラブル防止の啓発活動を継続して実施する。 ○服装指導、遅刻指導について、家庭との連絡を密にして取り組む。 ○不安を抱えている生徒について迅速に対応し、担任、学年団、SC、SSW及び関係機関と連絡を密に行い生徒を支援していく。 ○分離礼については、できるまで繰り返すなど徹底して指導する。	○多くの生徒は、落ち着いた学校生活を送っているが、規範意識の低い生徒もあり、SNS利用や公共の場でのルール遵守について継続的な注意喚起を行った。 ○人権教育では、「普段の人との関わりの中にある人権課題」をテーマとして取り上げ、班活動やグループ討議を通して学ぶことができた。 ○授業を中心に継続して分離礼について指導した結果、ある程度定着してきた。 ○アンケートで、「基本的生活習慣の確立」項目の肯定的評価は、生徒89％、保護者86％であった。	B	○引き続き生徒が安心して学校生活を送れる環境を整えていくとともに、規範意識が多くの生徒に身につくよう啓蒙していく。また、保護者との連絡も密にしていく。 ○人権学習においては、「知ること」に重点をおき、無関心でいることなく、学び続けることの大切さについて強調していく。 ○分離礼が普段の学校生活の中でも実践できるように繰り返し指導していく。
【キャリア教育の充実】 ○適切な職業観・勤労観を持ち、意欲的に課題発見・課題解決に取り組む人物の育成 ○インターンシップの早期計画と進路LHRの活用 ○地元産業界との連携を図り、専門性を深化させ、地域から信頼される人物の育成 ○資格試験の合格率向上のための指導法の工夫	○系統立てた指導により、職業観・勤労観の育成を図り、課題研究等を充実させ、主体的積極的な取組の推進 ○インターンシップ等、体験学習の充実 ○進路実現に向け、地元産業・大学等の理解促進を図り、進路意識の向上 ○資格取得に向けた取組を推進し、より高度な専門資格の取得	○本校が今まで取り組んできた進路指導、キャリア教育を基礎として、キャリアパスポートを作成した。 ○1年生は進路希望別に学校企業見学会、2年生は多くの事業所の協力を得てインターンシップを行ってきた。その事前・事後の指導を計画的に行い、職業観・勤労観を醸成している。 ○3年生は課題研究を通してその専門性を深化させるとともに、希望する進路実現のために面接、小論文の学習に取り組んでいる。 ○各種資格試験に熱心に取り組んでいる生徒は多いが、それに見合う十分な成果は得られていない。	○キャリアパスポートが実効性あるものとなるように修正を加え、3年間を見通したキャリア形成の道筋をつけるものにしていく。 ○インターンシップに主体的・積極的に参加し、職業観・勤労観を高め、自らの明確な進路意識につながっている。 ○就職希望者が全員内定を得ている。 ○各種資格試験の合格率が目標に達している。また、進路を意識し積極的に上位級を目指している。	○キャリアパスポートの内容以外にも、生徒が記入するため時間の確保など課題も多いが、教員間の共通認識を大切にしてい取り組む。 ○新型コロナウイルスの影響でインターンシップの実施が難しい状況であるが、実施に向けて準備を進めていくことで生徒のキャリア意識を深めていく。 ○3年生の面接指導の実施時期を早め、全職員で指導していくことにより生徒の進路意識や自己発信力を高めていく。 ○資格試験対策においては、知識の伝達にとどまらず、学習法を指導することで、生徒の主体的学習を促す。また、家庭で復習できる教材を用いて知識・技能の定着を目指す。	○キャリアパスポートについては、試行的な側面もあり、担任団と連絡を取りながら形を整えた。コロナ禍で対外的な活動が大幅に制限されたので内容面で工夫が必要だった。 ○2年生インターンシップは、受入れ企業の協力もあり10月に3日間実施することができ、職業観、勤労観を養うことができた。 ○3年生の一斉面接指導を7月に実施したことが、生徒の進路実現に向けた意識を高めることにつながった。就職関連日程が、例年より1か月遅れることになったが、多くの生徒は第1希望の企業から内定を得ている。 ○専門教科では生徒の資格試験、技術検定などの合格に向けて講習等に取り組んだ。その結果、商業学科では日商簿記検定2級、全商3種目以上1級合格者、家庭学科では技術検定3冠王などの上級位取得者が増加した。	B	○次年度も進路ガイダンスや講演会などが計画通り実施出来ない可能性がある。行事のオンライン化や代替措置の検討を進めていく。 ○2年生のインターンシップは、予備の時期を設定して、状況を見ながら実施する。 ○3年生の面接一斉指導は、本年度効果があったことから、継続して実施する。 ○資格試験、技術検定に向けた学習意欲を喚起し、上位級資格を目指す生徒を増やしていく。
【地域社会への貢献】 ○地域を知り、ふるさとを愛し、広く地域社会の発展に寄与する人物の育成 ○社会貢献の推進、校外の教育力の活用	○地域活力の導入や地域活性化の推進 ○学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人財の育成	○商業科課題研究では、米子市公会堂と連携した新イベントを開催した。地域とのつながりを伴う活動を通じて、自らのキャリアデザインのきっかけをつかみ、進路選択の参考にできる生徒が出てきている。 ○家庭学科課題研究では、いくつかの生徒企画製品の商品化を果たし、試食会や販売活動等ではマスコミに大きく取り上げられた。多くの方に支援していただき、地域活性化に貢献できたことは、生徒の問題解決力育成と大きな達成感につながった。 ○学校祭をはじめとして、生徒会担当の各行事や独自の取組である挨拶運動等の活動は生徒会長が中心となり執行部員をまとめ協力して行うことができた。まだ工夫や改善は必要であるが成果のある活動を行うことができた。	○地域と連携した取組をさらに充実させていくとともに、課題研究等を通じて取組に関わる生徒、職員を増やす。 ○2月開催予定のみつばち学習発表会を目標として、地域をより理解し、行動できるようコミュニケーション力・プレゼンテーション力を向上させる。 ○生徒会活動では、既存の行事を実施していくことにとどまらず、学校生活をよりよくするための新たな取組を生徒からの発案で行えるような体制ができていく。	○活きたビジネス教育を実現していくためにも、生徒が地域の方々に出会って地域課題に接する機会を増やし、問題解決力を養っていく。 ○商業科新課程科目「観光ビジネス」の先行研究を行い、可能なものから現行の教育内容に取り入れていく。 ○地域貢献への高い意識を持ち、イベントには多くの生徒、教員が関れるよう配慮する。 ○生徒会が学校生活での要望等を集約し、提案する機会を作る。	○コロナ禍で各種イベントが中止され、生徒が参加する形での社会貢献をする機会には減った。 ○商業学科では自らが企画する形の、中心市街地活性化事業（米子市公会堂ブルーライトアップ、マチナカクリスタル）、コンテツ開発（鳥取大学附属病院への寄附活動）などは、報道でも取り上げられ、生徒は大きな達成感を得た。 ○家庭学科では、感染症防止対策として本校体育館を利用した保育園児交流を行った。また、日野町の小松菜粉末を利用した「美味しすぎてこまつな〜大福」の商品化を行った。 ○生徒会活動では挨拶運動等の自主的活動が定着してきた。	B	○開催されるイベントには積極的に参加し、地域活性化に貢献していきたい。 ○今年度コロナ禍で実施出来なかった「観光ビジネス」の先行研究を行い、課題研究等に取り入れていく。 ○オンラインを含む形での地域参加も検討していく。 ○次年度は暑さ対策として体育祭を1か月程度遅らせて開催することとしているので準備や内容面で生徒会の自立的な活動を支援していく。
【的確な情報発信】 ○学校の様子や教育内容等の伝達の工夫 ○学校に対しての正確な認識の形成	○メディアを利用した教育内容のわかりやすい伝達 ○特色ある専門高校としての人財育成に取り組む姿の発信	○ホームページに加えてフェイスブックでも情報を頻繁に発信し、イベントだけでなく授業内容についても発信した。 ○専門科教員による中学校訪問など積極的に関係機関へ情報発信する取組を行った。新たに中学校へ出前授業の提案を行ったが、中学校からの申し込みはなかった。	○生徒が成長していく過程がわかるような情報を発信していく。 ○みつばち学習発表会を多くの地域の方や中学校関係者に見ていただき、本校の特徴を理解していただく。	○各メディアでの情報発信を分掌、学科、部活動等で月ごと点検し、積極的にやっていく。 ○みつばち学習発表会のパンフレットを作成し、中学生や地域の方に配布する。	○専門科でのイベントや普段の授業内容等をホームページで頻繁に発信できた。 ○学校案内パンフレットを生徒が授業を利用して作成し、概ね好評である。 ○みつばち学習発表会案内用パンフレットを作成配布した。	A	○情報発信を多くの職員ができるように、発信手順をマニュアル化していく。 ○出前授業は、中学校側の要望に応え、実効性のあるものにしていく。
【業務改善の取組】 ○働き方改革の推進 ○時間外業務の削減	○ワークライフバランス確立の推進 ○長時間勤務者の解消	○時間外勤務時間は平成29年度に比べて25％の削減ができていたが、個人によっての偏りが見られる。 ○学校組織を見直し、分掌数を9から5に減じて、複数人で各業務に関わるようにした。	○各個人の時間外業務が月45時間以内、年360時間以内となっている。 ○「部活動に係る活動方針」に沿った部活動が行われている。	○分掌業務が効率的に遂行されているか注視していく。 ○休日の部活動を、できるだけ顧問間で分担する。	○本年度より分掌再編を行ったが、円滑に業務は遂行されている。 ○平均時間外業務は1月まで、平成29年比で56％減と大幅に減少している一方で360時間を超えた職員もいる。	B	○教科や分掌の中で、業務の偏りが大きくなるよう注視していく。

評価基準（5段階）	A：十分に達成	B：概ね達成	C：変化のきざし	D：まだ不十分	E：目標・方策の見直し
-----------	---------	--------	----------	---------	-------------